



The Pragmatics Society of Japan

日本語用論学会

NEWSLETTER

<http://www.pragmatics.gr.jp>

No.38 / Autumn 2017

会 長 加藤 重広

事務局 〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1

京都ノートルダム女子大学 人間文化学部英語英文科 小山哲春 研究室内

事務局連絡先 [psj.secretary@gmail.com](mailto:psj.secretary@gmail.com)

郵便振替口座 00900-3-130378 口座名:日本語用論学会

ゆうちょ銀行 ○九九支店 当座預金 店番号 099 口座番号 0130378 日本語用論学会

## 《寄稿》PSJの20年—回顧と展望

日本語用論学会理事  
山梨 正明

歳月の流れを十年をひと区切りとして考えると、日本語用論学会は創立から今年で二十年の区切りの年となる。「十年一昔」が十年をひと区切りとするならば、語用論学会は、「二昔前」に創立されたことになる。この二十年の歴史を経て、語用論学会は着実に発展し、国際的な学会への一歩を踏み出している。

当初、本学会の発展を支えた原動力は何か？ 会員の皆さんの中には驚かれる方もいるかも知れないが、それは <お酒による人間的な交流>であったような気がする。このことは、昔、本学会のニューズレターでも触れた記憶がある。酒宴、これこそがこの学会を産み出し、支えてきた力 (i.e. スピリッツ(!?)) である、と私は今も確信している。

すでに二昔前なので、若手の学会員の方はご存じないかもしれないが、本学会は、歴史的には、まず関西の先生方の呼びかけによってスタートしている。二十年前、学会の設立のための準備委員会が関西圏の大学の先生方によって構成され、京都や大阪の梅田界隈でお酒を飲みながら学会の未来について熱く語り合った頃が懐かしく思い出される。

その当時は、語用論学会の準備委員会の後は必ずといっていい程、お酒を飲みながら学会の未来についてだけでなく、学問・人生についても語り合った。特にお酒がお好きな小泉保先生と児玉徳美先生に、何人かの当時の中堅、若手の先生方が加わり、実に楽しく歓談した。酒宴のためなのか、学会準備のためなのか、どちらがメインなのかよく分からない会であった。一部の先生は、おそらく準備委員会に出るよりも、その後の酔酩の場に参加するのが楽しみで来られていたような気もしないではない。

本学会は、学問的な交流だけでなく、人間的な交流の場としても発展してきているが、当学会が今日ここまで発展して来た原動力の一部には、この実に人間的で、プラグマティック (!?) な動機が働いていると言っても過言ではない。

このように、本学会は、まず関西圏を中心にスタートし、二十年の歳月を経て全国学会に発展し、国際的な学会への一歩を踏み出している。本学会は、他の言語学関係の学会に比べて、非常に家族的な雰囲気には支えられている学会である。今から考えると、学会発足前の人間的な交流の場が、現在に至る本学会の家族的な雰囲気を作り出す力になってきたと言える。ここに本学会の原点がある。日本語用論学会は、今後も国際化を視野に入れた全国学会として着実に発展していくことが期待されるが、本学会が単なる知の探究の場としてではなく、これまで以上

に人間的な交流の場として発展していくことが期待される。

語用論のアプローチは、形式と意味の関係からなる単なる記号系の研究を目指している訳ではない。語用論は、この記号系を、人間的な交流を可能とする運用能力のダイナミックな発現系として捉えていく学際的な研究パラダイムに支えられている。狭義の言語学の研究では、言語分析に際し、形式と意味の関係からなる自律的な記号系を前提とするアプローチがとられ、実際のコミュニケーションにおける言語主体の運用能力に基づく体系的な研究はなされていない。

狭義の形式的な言語学の研究では、言語主体が疎外化されているだけでなく、ともすればその研究に従事する言語学者自身も気がつかないうちに疎外化されていくことも懸念される。この点を考慮した場合、言語の形式・構造のみならず、意味、伝達意図、対人関係、情報機能、等を視野に入れた語用論の研究は、伝達に関わる言語主体だけでなく、(メタ認知的に言うならば) 語用論の研究に関わる研究者自身の人間的交流も視野に入れた研究の場を可能とする。本学会が、単なる知の探究の場としてではなく、今後、このような対人的、人間的な交流の場としてさらに進展していくことを期待したい。

(元・日本語用論学会会長)

**\* 日本語用論学会第20回大会(20周年記念大会)のご案内 \***

2017年度の第20回大会は、20周年記念大会として、以下のとおり、京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス)での開催となります。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆日時 12月15日(金), 16日(土), 17日(日)
- ◆場所 京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス) 60周年記念館・東3号館(旧・ノートルダム館) 〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町
- ◆大会テーマ「語用論のこれまでとこれから—学会20年の歩みとともに—」
- ◆大会参加費 会員 2000円、非会員 3000円

**◆主なプログラム**

《12月15日(金)》

プレコンフェレンス・ワークショップ

【テーマ】語用論の現在と未来

14:00~15:30 Christopher Hart (Lancaster University) "Cognitive Linguistic Critical Discourse Studies (CL-CDS)"

15:45~17:15 Jonathan Culpeper (Lancaster

University) "A Pragmatic Approach to Context: Activity Types"

《12月16日(土)》

9:30 受付開始

10:00~11:50 20周年記念シンポジウム「語用論研究の広がり：語用論の関連分野からの提言」  
講師：松本曜氏(国立国語研究所)「意味論と語用論は近づいたか」

講師：酒井弘氏(早稲田大学)「含意と推論の基盤を探る」

講師：定延利之氏(京都大学)「民族音声学の夜明け」

11:55~13:10 昼食休憩/会員総会

13:10~15:05 研究発表①

15:10~16:40 一般ワークショップ

13:50~14:50 特別講義 张绍杰 Zhang Shaojie 氏 (China Pragmatics Association 副会長)  
"Culture-specific Face in Chinese"

16:50~18:20 基調講演 講師：Prof. Christopher Hart "Experimental Methods in Cognitive Linguistic Critical Discourse Studies (CL-CDS)"

18:30~20:00 懇親会(一般4000円、学生3000円。参加費は大会受付にてお支払いください)

《12月17日(日)》

9:00 受付開始

9:30~11:25 研究発表②

11:30~12:20 ポスター発表

12:50~14:20 基調講演 講師：Prof. Jonathan Culpeper "Historical Pragmatics: The Case of Early Modern English Negatives"

14:30~16:30 東アジア特別国際シンポジウム 「東アジアの語用論 (Pragmatics in East Asia: Its practice and contribution)」

講師：詹全旺 Zhan Quanwang 氏 (中国 Anhui University 安徽大学) Subjectification of the English Booster awfully: A Corpus-Based Study

講師：王萸芳 Wang Yu-fang 氏 (台湾 National Kaohsiung Normal University 国立高雄師範大学) The Structures, Meanings and Functions of Conditional Clauses in Spoken and Written Chinese Discourse

講師：Rhee Seongha 氏 (韓国外国語大学校 Hankuk University of Foreign Studies)

Grammaticalization and Pragmatic Inference: The Case of Insubordination

ディスカッサント：Jonathan Culpeper 氏 (Lancaster University)

16:30~16:40 閉会の挨拶

## ◆基調講演 要旨

## Plenary Lecture 1

12/16(SAT) 16:50～18:20

Experimental Methods in Cognitive Linguistic  
Critical Discourse Studies (CL-CDS)  
Christopher HART (Lancaster University)

## Abstract:

Critical Discourse Studies (CDS) is concerned with the strategies and structures presented by text and discourse in contexts of political communication and their power in legitimating social actions, identities and relations. A number of linguistic forms have been identified as especially significant, including transitivity structures, appraisal resources and metaphor. CDS, however, has been accused of over-interpreting the pragmatic functions of these forms. In this talk, I will argue that experimental methods can be usefully deployed in CDS to verify qualitative analyses and guard against over-interpretation. I present findings from recent experimental studies in CDS.

## Plenary Lecture 2

12/17(SUN) 12:50～14:20

Historical Pragmatics: The Case of Early Modern  
English Negatives  
Jonathan CULPEPER (Lancaster University)

## Abstract:

I open this talk by describing and illustrating the various strands of work that comprise historical pragmatics. I point out similarities and differences between synchronic and diachronic variation. Turning to method, I discuss the very recent and rapid rise of corpus pragmatics, a method that has been central to historical pragmatics for years. In the second half of the paper, I conduct a pragmalinguistic case study, namely, the investigation of early modern English negatives. In order to contextualise negatives, I first outline early modern affirmatives, including yes and yea, drawing upon Culpeper (forthcoming). I then turn to two key early modern negatives, namely, no and nay. I will use corpus methods to examine their contexts of use. I will also consider multiple negation. Throughout this talk I will endeavour to connect with issues of general concern in pragmatic studies.

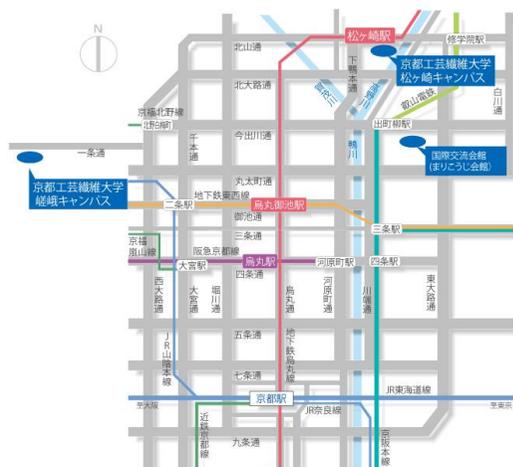
◆発表会場に現れない、もしくは、ポスターを貼ってあるだけで説明員がまったくいないなどのいわゆる“No Show”に対する措置

発表が採択されたにもかかわらず、大会当日に大会運営委員会に無断で発表を行わない、も

しくはポスターの掲示のみで説明を行わない場合に、これらを“No Show”とみなし、本学会のホームページにて公表します。ただし、事前もしくは当日に、また、やむをえない場合には事後に、発表を行えなかった合理的な事情の説明があった場合には、「キャンセルされた発表」とみなします。

## ◆大会会場・京都工芸繊維大学への交通・宿泊について

〔交通について〕



京都駅より市営地下鉄烏丸線「国際会館」行きに乗車(約18分)「松ヶ崎駅」下車、徒歩約8分  
地下鉄松ヶ崎駅からのアクセス



地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅より徒歩約8分。(出口1から右(東)へ400m進み4つ目の信号を右(南)へ180m)

〔宿泊について〕

この時期の京都周辺のホテルは例年混み合いますので、予約は早めをお願いします。場合によっては大阪府や滋賀県のホテルでも JR 京都

線・琵琶湖線の沿線なら比較的短時間でご来場になれます。交通機関を確認のうえ、ご利用ください。

### ★20周年記念大会ポスターを作成しました。

### \*\*\* 研究会コーナー \*\*\*

#### ◆中部地区研究会

京都での大会の翌日に名古屋大学で Seongha Rhee 先生の講演会を開催します。

講演テーマ: "Grammar of sound: Ideophones and synesthetic perception in Korean"

講師: Professor Seongha Rhee (Hankuk University of Foreign Studies)

日時: 12月18日(月) 午後5時~6時半

場所: 名古屋大学・東山キャンパス全学教育北棟406室

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>)

交通案内: 地下鉄名城線「名古屋大学駅」①番出口徒歩5分

主催: 平成29年度名古屋大学大学院人文学研究科研究プロジェクト経費

「日本語学・日本語教育学分野の教育研究の国際化・活性化プロジェクト」

協賛: 日本語用論学会(中部地区研究会)

入場無料・事前申し込み不要

#### ◆メタファー研究会

メタファー研究会「安芸の陣」

日時: 12月9日(土) 10:00~17:35 +懇親会 18:00~20:00

場所: 広島国際大学 広島キャンパス 4階400教室(広島市中区鞆町、JR 広島駅から徒歩10分) 詳細:

<https://sites.google.com/site/metaphorstudy/home>

### \*\*\* 委員会より \*\*\*

#### ◆大会運営部プロシーディングス委員会より

語用論学会では第8回大会より『大会発表論文集』を発行しておりますが、2016年度第19回大会の論文集は、学会のホームページで公開される予定です。

掲載予定の論文数をご報告いたします。

研究発表(日本語) 12本

研究発表(英語) 1本

ワークショップ発表(日本語) 3本

ワークショップ発表(英語) 1本

ポスター発表(日本語) 6本

ポスター発表(英語) 2本

合計で25本が掲載予定です。

#### ★『語用論研究』編集委員会より

現在 S/P19 の最終査読中です。今年度から、「修正後再審査」により今号への採否を最終的に決定する、新しい評価段階を取り入れました。当該投稿は査読が2回になるため手間が大変ですが、よりきめ細かい対応が可能になりました。掲載数もこれまでより増えてくれる? ことを期待しているところです。(S/P 編集委員長・滝浦真人)

### 《事務局より》

#### ★ 会費納入のお願い

◆年会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 4,000 円、団体会員 7,000 円でございます。11月までに、ご納入いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。学会口座は以下の通りです。

【郵便振替】

口座番号: 00900-3-130378

口座名: 日本語用論学会

【ゆうちょ銀行】

支店名: 099

口座種類: 当座

口座番号: 130378

口座名: 日本語用論学会

学会ホームページの「会費専用ページ」より、クレジットカード決済も可能でございます。

会員ステータス、会費納入、会員専用ページへのログイン等に関するお問い合わせは、事務局ではなく下記までお願いいたします。

日本語用論学会 会員管理室  
psj@outreach.jp

今年度から年会費を変更させていただきました。また三井住友銀行の口座は閉鎖させていただきました。

ご負担をお掛けいたしますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

#### ★熊本地震被災会員の皆様の会費・大会参加費免除について

2016年度に引き続き、平成28年熊本地震で被害に遭われた会員の皆様に対し、お申し出いただくことにより「2017年度会費」ならびに「2017年度年次大会(2017年12月)の参加費」を免除させていただきます。被災地の皆様方の一日も早い復興を心からお祈りしております。

免除申請先(メール、郵送、電話のいずれも可、まずはご連絡いただけましたら手続きの詳細をご連絡させていただきます。)

日本語用論学会事務局  
〒606-0847  
京都市左京区下鴨南野々神町1  
京都ノートルダム女子大学 人間文化学部英  
語英文学科 小山 哲春 研究室内  
E-mail: [secretary@pragmatics.gr.jp](mailto:secretary@pragmatics.gr.jp)  
Phone: 075-706-3670

#### ★PSJ 公式 HP リニューアルのお知らせ(再掲)

1.新 HP への移行と電子投稿システムの運用開始  
語用論学会のホームページがリニューアルされましたので、どうぞご活用ください。

<http://www.pragmatics.gr.jp/> (URLは変更なし)

新しい機能として、会員専用ページから学会誌『語用論研究』への論文投稿ができるようになりました。また、受付期間は先ですが、会員専用ページから大会発表応募や参加申込みもできるようになります。年会費のカード払いも以前同様可能です。

#### 2. 会員専用ページへのログイン方法

新 HP の会員専用ページは、セキュリティ強化のため二段階認証になっています。ログインは以下の通りにユーザ名/ログイン名、およびパ

スワードを入力して行ってください(すべて半角小文字)

#### 第一段階認証:

ユーザ名(user): basic

パスワード(password): psj

#### 第二段階認証(マイページログイン画面)

ログイン名: 学会にご登録のメールアドレス

パスワード: 以前通知してあるもの

パスワードを忘れた場合は、「パスワード忘れた方」をクリックすると新しいパスワードが登録されたアドレスに送信されます。マイページ(会員専用ページ)で登録情報の確認・修正をお願いします。

#### ★《新刊・近刊案内》★

■『語用論の基礎を理解する』Gunter Senft(著)、石崎雅人、野呂幾久子(訳) 開拓社(定価3,672円(税込)) 原著: *Understanding Pragmatics*, Routledge 2014

本書は、哲学、心理学、人間行動学、エスノグラフィー、社会学、政治に関連する語用論の知見を整理するとともに、それぞれの分野についてその歴史から現在までを原典を示して俯瞰しているバランスのとれた、コンパクトな語用論の入門書である。これから語用論を学ぼうとする学生、とくに大学院生には、語用論に関連するさまざまな分野を深く学んでいく手がかりを与えてくれるユニークな書となっている。(2017.9.23刊)

■シリーズ: 言語表現とコミュニケーション1  
『語はなぜ多義になるのか —コンテキストの作用を考える—』中野弘三(編) 朝倉書店(定価3,200円+税)

語用論の中心課題である、言語表現とコミュニケーションの場の解明、特に意味伝達のプロセスを解明するシリーズ。第1巻では、意味理論、語用論理論をもとに語の多義性を分析し、歴史的意味変化や、借用の過程で生じる意味変化を扱う。

#### ◎シリーズ刊行のことばより

本シリーズは、コミュニケーションの場で用いられた言語表現の意味の問題を様々な角度から検討しようと構想されたものである。本シリーズを特徴付けるキーワードは、「言語表現」、「コンテキスト(コミュニケーションの場)」、言語表現とコンテキストを結びつける「語用論的能力」の三つであり、本シリーズではこれら

のキーワードに関わる問題を三つの巻に分けて扱う。

具体的には、第1巻では語の多義性とコンテキストの分析を中心に語の意味とコンテキストの関係を、第2巻では対話表現（法表現、談話標識、配慮表現など話し手の心的態度を表す表現）の意味機能を、第3巻ではコンテキストに応じた発話の解釈と発話行為の選択の問題を、それぞれ扱う。（2017.3.20刊）

■『発話のはじめと終わり 語用論的調節のなされる場所』小野寺典子（編）小野寺典子、澤田淳、東泉裕子、Joseph V. Dias、Elizabeth Closs Traugott（執筆）（定価 3,800 円＋税）ひつじ書房

「話す」ことは、人の基本的・原始的な営みである。なかでも発話頭・末（周辺部）は、話者が「会話管理」「談話方略」「対人機能」などの「語用論的調節」をしている場所と考えられ、注目されている。人は、「発話のはじめと終わり」で何をしているのだろうか。周辺部研究の基礎知識から、英日語それぞれの例、最新の文化化・構文化研究まで、第一線の研究者たちが論じる。（2017.3.刊）

■『コミュニケーションを枠づける 参与・関与の不均衡と多様性』片岡邦好、池田佳子、秦かおり（編）くろしお出版（定価 3,700 円＋税）

日常の相互行為（やりとり）に参加するとき、意識しようとしまいと私たちはある種の枠（フレーム）を形成する。ゴフマンによって提案された「参与枠組み」を、単なる情報伝達の域を超え、有象無象の関わりの中から立ち現れるものと捉え、再定義する。

（2017.2.22 刊）

■『機能文法による日本語モダリティ研究』角岡賢一（編著）飯村龍一、五十嵐海理、福田一雄、加藤澄（著）くろしお出版（定価 4,500 円＋税）

本書の目的は書名の通り、選択体系機能文法（機能文法）の枠組みによって日本語モダリティを分析することです。機能文法は、1960年代から MAK ハリデー教授を中心として築き上げられた体系です。その特徴は例えば、観念構成・対人的・テキスト形成という三つの「メタ機能」によって、言語の意味や機能を重層的に分析する点にあります。「言語が数多くの選択によって成り立っている」という考え方を視覚的に表しているのが「選択体系網」と呼ばれる図表です。本書では、このような枠組みを用い

て日本語モダリティを分析していきます。またこの枠組みは、テキスト分析を行うには非常に体系的な構造を有していると言えます。本書では、第6章においてテキスト分析の実例を示します。

（2016.12.19 刊）

#### ■広報委員会からのお知らせ

会員諸氏に広くお知らせしたいと思っておりますので、語用論関連の新刊書・近刊書の情報があれば広報委員会宛にお寄せください。ご自身の著作はもちろん、恩師・同僚・友人・指導学生の出版物、比較的目にとまりにくい日英語以外での出版物なども歓迎します。なお、紹介文は出版社によるものを利用しています。

PSJ members selected this section's recently published and forthcoming books on pragmatics. We invite you to introduce books you recently published or highly recommend, to fellow members. Little-known books, and books written in your native language are especially welcome.

#### ～編集後記～

■急に秋の装いになり、寒くなって参りましたが、いかがお過ごしでしょうか。季節の変わり目には何かと体調を崩しがちなので十分にお気をつけください。今後も、単なる事務局からのお知らせだけではなく、何か会員の皆様からの声をお届け出来たらと思っております。ニューズレターにご投稿ご希望の方は、どうぞ担当者までお知らせ下さい。（堀田秀吾 記）

■PSJ 設立 20 年の節目を迎え、今号より歴代会長を務められた理事の先生方に順次ご寄稿いただくこととなりました。学会の歴史を学びながら今後の発展に活かしていけたらと願っています。今号にご寄稿くださった山梨正明先生に心より感謝申し上げます。会員の方からも回顧談などございましたらぜひご投稿ください。お待ちしております。（山岡政紀）

日本語用論学会 Newsletter 第 38 号

発行：日本語用論学会広報委員会

発行日：2017 年 10 月 23 日

[広報委員会]

\* 委員長：山岡政紀

\* Newsletter 編集担当：

堀田秀吾 ([hotta@meiji.ac.jp](mailto:hotta@meiji.ac.jp))

\* 公式ホームページ担当：尾谷昌則

\* 会員メーリングリスト担当：金丸敏幸